



## [ エマオ通信 ]

No.19 (2月15日発行)  
発行人 高良 研一 (会長)  
編集人 稲川 仁 (事務局長)  
発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

25/26年度主題：「私と教会が元気になるには」 聖句：わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

## &lt;メッセージ&gt; 「バプテスト教会に思う」

木村 一充 (栗ヶ沢教会牧師)

バプテスト教会のアイデンティティはどこにあるか、それは古くて新しい問いです。17世紀の初めにバプテストと呼ばれる群れが英国国教会から分離してオランダで誕生した時、彼らは幼児洗礼を否定し、自覚的な告白者によるバプテスマこそが正しい洗礼だと主張して、再洗礼を行いました。1608年当時のバプテスマは、全身を水に沈める浸礼ではなく、灌水礼(滴礼)でした。全身を水に沈める形式が定着したのは、それから30年余りの後の1642年以降だと言われています。

初代バプテストのリーダーたちは、多くは職人であったことが知られています。信徒による説教によって礼拝が行われ、ロンドンで伝道していた。しかし、英国国教会の統治下にあったイギリスで伝道することは容易ではなかった。そのような中で、英国国教会から分離した非国教徒の一部が、新天地を目指してメイフラワー号に乗ってアメリカに向かう(1620~21年)という出来事が起きました。

このような歴史を振り返るとき、バプテスト教会の特質の一つとして「自由」を重んじる精神を挙げてよいと思います。「信教の自由」すなわち「政治と宗教との分離」はバプテスト教会の生命線だったのではないのでしょうか。その精神のもとに、自覚的な信徒による会衆主義の教会運営が行われるようになったのです。

バプテスト連盟に加盟する教会の主日礼拝の式次第を見比べると、同じものがないと言えるほど、多様であることに気が付きます。各個教会主義を唱えているため、当然といえば当然ですが、この多様性こそ、今後教会が生き残っていくために大切にすべきことではないかと思うのです。伝統や慣習といった古いものに固着することなく、新しい思想や理念を他所から学び、それを取り入れてゆく柔軟な精神がなければ、教会は化石化してしまいます。

栗ヶ沢教会では、他教派からの転入会希望者に対して、原則として入会のための再洗礼を求めるといった細則を持っています。この細則を改正することも視野に入れつつ、この規程をめぐる合同学習会をこの2月から開始します。他教会の事例も学びつつ、いかにして教会が「バプテストの教会」になるかが試されているところです。



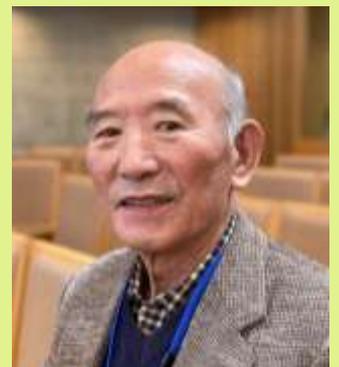
## &lt;証①&gt; 「凡庸をも受け入れる主の偉大さ」

高松 隆幸 (西川口教会)

わたしがバプテスマを授かったのは、今から13年前の69歳の時でした。不思議な導きにより家族が順次教会員になるなか、教会に通いながら26年もの間、頑なにイエス様を受け入れられない自分がいました。このようなわたしが主を受け入れられたのはなにもドラマチックな出来事があったからではありません。ほぼ毎週のように教会に通い、説教を聞き、皆さんに受け入れられ善い時間を過ごすことにより、自然に主の教えが生活のリズムに組み込まれて行ったからでした。

そして教会員になった翌年、執事に選ばれてから3年間は目まぐるしくも、充実した日々を過ごすこととなりました。全国規模の総会や壮年会連合への参加を始め、北関東地方連合(きたかん)の各種行事への参加、とりわけ相互訪問、きたかん伝道隊への参加は印象深いものでした。地域内の教会による相互訪問は、牧師・教会員との交わりを深くし、自教会にはない取り組みに教えられ、協力伝道の絆をより深める役割を担っていました。

また、きたかん伝道隊への参加も思い出深い経験でした。東北連合の各教会へ2泊3日の行程でお邪魔し、周辺のご家庭に伝道の種を蒔く奉仕等に汗を流したものでした。ここでは貴重な経験をさせていただきました。わたしたち(入信間もない自分だけだと思います)は、あたかも上から目線で接していたかも知れません。が却って私たちが励まされ教えられるという貴重な機会を得させていただいたということでした。傲慢さがへし折られ、謙虚な気持ちを植え付けられました。謙虚という言葉から思い出されるのは、執事選任の早々、信徒説教のご奉仕の一旦を担わされたことでした。主のみ言葉を取り次ぐのではなく、いかに上手に語れるのかのみに心が向いていたことでした。説教の間、しばし絶句することがありましたが、なぜか慌てることも起きず、話を続けられました。これは至らぬ私を主が憐れんで正しい軌道に導いていくくれたものと感謝しています。その後、重篤な疾病にかかり教会のご奉仕には係われなくなりましたが、礼拝と聖書研究祈祷会への参加を通して凡庸なわたしをも顧みてくださる主の偉大さに従って日々を過ごしています。



## <証②> 「無牧師の中で見えた神の恵み」

鈴木 俊也（清水栄光教会）

私たち、清水栄光キリスト教会は、2024年10月から半年間の無牧師期間を経験することになりました。幸いな事に、30年以上、牧師が途切れることなくいてくださったこともあり、この出来事は、教会員のほぼ全員が初めて遭遇する危機でした。

みんなガクシ、落ち込んでしまうかなとも思いましたが、そんなことはなく、今まで牧師に担っていただいていた仕事を見える化し、みんなで分担しようと動き出しました。自分たちがお客様で、どれだけ牧師に頼りきりになっていたか、気づかされたと同時に、一人一人がその役割を担うことにより、私たちの教会なんだという意識を持つことができるようになりました。ただし、「無理は絶対にしない」が合言葉になりました。

当時、無牧師期間を過ごしていた同じ西関東地方連合の山梨教会を訪問し、自立し、工夫して毎週の礼拝を捧げているのを目の当たりにしました。彼らには遠く及ばないが、私たちも月に1回は教会員がメッセージを行い、自立して礼拝を捧げようと立ち上がりました。私もメッセージ奉仕の一角を担うことになり、いつになく真面目に聖書を読むようになりました。

牧師招聘の方針について、教会内で意見がぶつかることもありました。私たちの教会はおとなしいメンバーが多く、そのような経験も新鮮でした。私自身は、無牧師期間が少し長くなってしまっても、じっくり自分たちの足元を見つめ直し、ちゃんと自立していきたいという考えでした。それも大事だが、外へのアプローチもどんどんやっていくべきだという考え方もありました。お互い教会のことを真剣に考える故のぶつかりでした。

そんな私の考えとは全く裏側で、神様は私たちのために、大竹敏生牧師を用意してくださっていました。「お前、そんなに忍耐できないだろう？知ってるよ」と。以前のように何もかも牧師に頼り切りにならずに、無牧師期間に分担した役割の一部は今でも継続してみんなで担っています。一方的な神の恵みに驚かされつつも、ちょっとだけ成長できたような気がする、半年間の無牧師期間でした。



## <今後の歩みと働きのための祈り>

- ◎ 全国壮年会連合オンライン研修会、3月14日(土)10-12時、Zoom ID: 405 896 1393 パス: sonen  
テーマ: 「この時代にバプテストとして生きる」 副題: 「安定を図る誘惑に抗い、新しく歩み出す信仰の群れ」  
講師: 朴 思郁 (ぱく さうく) 日本バプテスト連盟宣教研究所 所長/西川ロキリスト教会牧師 参加費無料
- ◎ 今年度の西南学院大学神学部の神学コースの神学生7名(リカレント生、他派の神学生を含む)、及び、東京バプテスト神学校の専攻科生4名(他派の神学生を含む)、九州バプテスト神学校の専攻科生8名(休学中、他派の神学生を含む)の方々の今後の学びと今後の歩みのために、そして、これらの神学校で学ぶ神学生、神学部で学ぶ神学生が更に起こされますように。来年度入学する予定の方々の準備、そして送り出す教会のためにお祈りください。
- ◎ 働きながら、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校の本科で学んでいる方々の中から、専攻科に進む方がおこされるように。
- ◎ 昨年8月の全国壮年会連合の定期総会(文書による)の協議事項の「属性(性別、既婚・未婚、年齢)によらない全国壮年会連合の今後の在り方」について、女性連合役員会より申し入れがあり、オンラインによる二者懇談会を1月13日(火)の午前中に開催しました。全国壮年会連合としては、元々可能ならば、来年度の議案としたいと考えておりましたが、全国壮年会連合としては、今後も女性連合と対話し、また共に学びの機会を得て、時間を掛けながら、代表者会議メンバーで選出する検討委員会の方々の働きを踏まえて、対応していこうと考えておりますので、お祈りに覚えていただきますように。
- ◎ 西南学院大学神学部の神学コースの神学生、東京バプテスト神学校・九州バプテスト神学校で学ぶ専攻科の神学生の研修教会での豊かな学びの為に。
- ◎ 特色と強みを生かした三つの神学校で、諸教会・伝道所の各教会から、新たに、両神学校で必要な科目をオンラインでも受講したり、スクーリング等により、信徒説教のための学びを深め、無牧師の教会・伝道所等での奉仕へ豊かに導かれますように。そして、信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれますように。
- ◎ 全国壮年会連合は、今年8月6日(木)ー8日(土)で開催される、西南学院大学での第一回バプテストフェスティバルに共催しておりますので、壮年の皆様のご参加を期待しております。なお、初日の午前11時からランチを共にしながら、全国壮年大会を早く開催しますので、併せてご参加をお願いいたします。
- ◎ 来年2027年度の全国壮年大会を担当します、神奈川連合壮年会の皆さんの準備が豊かに導かれますようにお祈り願います。
- ◎ 再来年2028年度の全国壮年会連合結成50周年記念大会の準備のために。

## <お願い>

- それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会(1965年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。